

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第42週(10月13日～10月19日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	40週	41週	42週	42週	42週
インフルエンザ	0.33	1.33	4.00	2.86	3.26
新型コロナウイルス感染症	12.33	7.33	2.67	2.36	2.57
RSウイルス感染症	0	1.50	1.50	1.39	1.26
咽頭結膜熱	●2.50	●4.50	●3.00	0.35	0.22
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	1.50	0.50	1.13	1.51
感染性胃腸炎	4.00	4.50	2.00	2.10	3.42
水 痘	▲1.50	0.50	0	0.06	0.18
手足口病	0	0.50	0	0.13	0.28
伝染性紅斑	●1.50	●5.50	●2.00	●2.81	0.95
突発性発疹	1.00	0	0.50	0.32	0.26
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.06	0.25
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.03	0.04
急性出血性結膜炎				0.13	0.01
流行性角結膜炎				1.63	0.91
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.03
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.05
マイコプラズマ肺炎	0	0	1.00	1.33	1.44
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0

急性呼吸器感染症(ARI)	43.00	45.00	35.33	55.04	52.48
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 インフルエンザを予防しましょう。

長崎県の第42週の患者報告数は143人で、定点当たり報告数は「2.86」でした。県全体では、第37週に流行の目安である「1.0」を超え、流行期入りしています。地区別では、舌岐地区(15.33)が注意報レベルの報告数となっています。今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【トピックス】 伝染性紅斑が流行しています。

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

2025年第42週の報告数は87人で定点当たり報告数は2.81でした。第32週に警報レベル開始基準値「2.0」を超え、11週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別では、10保健所中6保健所において、警報レベルの報告数となっています。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるとわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第42週までにSFTS11件、日本紅斑熱20件が報告されています。過去5年の県内の発生状況をみると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫病的報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。